

「今後の大戸川治水に関する勉強会」まとめ

近年、全国各地で毎年のように豪雨が発生し、計画規模を超える洪水により、浸水被害が多発している。

今後も気候変動の影響により、水害のさらなる頻発化・激甚化が懸念されており、これまで経験していないような大きな洪水に対する備えについて、その重要性が認識されてきている。

このような状況を考慮し、本勉強会では、大戸川流域でこれまで経験した降雨に加え、経験したことの無い大雨を対象として検証を行った。具体的には、実際に降った平成 25 年台風 18 号に加え、先の西日本豪雨をはじめ、近年全国で発生した豪雨を対象とした。これらが大戸川流域に降った場合、大戸川ダムを整備することで同ダムが滋賀県内に与える効果や影響を検証した。

その結果、大戸川ダムは、大戸川流域においては、計画規模の洪水に対して大戸川からの氾濫を抑制する効果や、超過洪水に対しても被害低減や氾濫を遅らせる効果があることが明らかとなった。また瀬田川洗堰操作においては、全閉を含む制限放流時間が短縮できる場合が多いことが判明した。

今後の対応として、琵琶湖後期放流対策としての瀬田川の河川改修や、瀬田川洗堰・天ヶ瀬ダムと大戸川ダムの連携方法などの検討を進めていく必要があることも判った。